

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュースNo. 11

2014年9月20日（火）発行

発行責任者：草野篤子（白梅学園大学）

TEL： 042-346-5639

住所：〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

地域の力に期待！

小平市 市民生活部 地域文化課 篠宮智己

みなさんこんにちは

この4月に地域文化課に異動してまいりました篠宮智己と申します。

以前の職場は、都市整備の面からまちづくりを推進していましたが、今回は、これまで以上に人と人のつながり、きずなを大切にしたい地域とまちづくりを進めていくこととなり、アプローチの仕方に違いはあるにせよ地域の方々の力で、地域をより良く、そして、活気がある地域とまちを作り上げていくことには、大きく方向が変わることはないと考えています。これまでのさまざまな経験を活かしながら、地域の方々とネットワークを築いていきたいと思っております。

さて、先日、「ほっとスペースさつき」さんにお伺いした時のお話をしますが、当日は、かなり緊張をしながらの訪問となりましたが、玄関をくぐって、すぐに、子供の頃に、家に帰ってきたときのような「何とも言えない温かさ」が思い出され、懐かしさとほっとした気持ちになり感激しました。さら

に、「さつき」さんにいらしている方々とお話をする中で、本当に皆さんの心の優しさが伝わってきました。その節は、本当にお世話になり、ありがとうございました。

最後になりますが、「小平西地区地域ネットワーク」の取り組みが、さらに活発になり、小平市全域の市民の方々が刺激を受け、盛り上がっていくことを期待しています。市においても地域の方々の「私たちの地域とまちは、私たちで」を一緒に考え、支援していきたいと思っています。

どうぞよろしく願いいたします。

（本稿は4月に頂いておりましたが手違いで掲載が遅れたことをご詫言いたします。）

「西地区地域ネットワーク」って何？

2012年3月17日に、白梅学園大学関係者がさまざまなNPO、ボランティア団体、民生・児童委員会、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん、一緒に活動に参加しませんか？

地域の「見守り」に関する実態調査と啓発活動

—高齢者の孤独死を防ぐために—

NPO法人ふれあいアカデミー理事長 長谷川稔

当NPO法人の「小平西地区地域ネットワーク」への参加は、所在が「西地区地域内」という地縁で設立時からの参加です。今回報告の実態調査及び啓発活動は、25年度小平市いきいき協働事業に採択された「地域の見守り実態調査及び啓発事業」を小平市高齢者福祉課と協働事業で実施した地域の見守りに関する実態調査と啓発事業「市民フォーラム」の概要報告です。

(1) 地域の見守りに関する実態調査

「地域の見守り」に関する実態調査は、小平市に登録されている自治会・町内会377団体を対象にアンケート調査を実施、235団体から回答が得られました。(回収率62,3%)

調査の趣旨は地域に於ける高齢者の「見守り活動」の実態把握と「見守り活動」が困難な事由、自治会・町内会の主な対応策、行政として対応すべき施策等への意見です。問題対応の最前線である地域包括支援センター(中央センター)は、ヒアリング調査で直接実情を聞くことが出来ました。自治会・町内会のアンケート調査は、地域の「孤独化」の実態、自治会としての対応状況、特に自由記述の課題は実情把握を重視しました。

各自治会の「高齢者の見守り活動」への関心は高く、踏み込めない課題に「プライバシー問題」を挙げ対応の難しさを痛感しました。調査結果は

『高齢者の地域における「孤立化の防止」に関する報告書』を冊子にまとめて報告しました。市役所で閲覧できます。

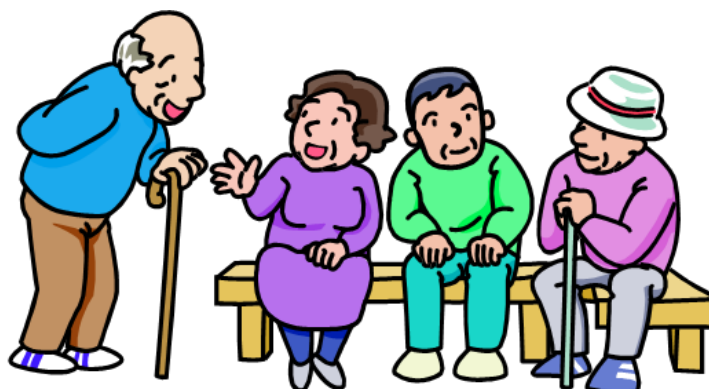
(2) 啓発事業「市民フォーラム」の実施

「市民フォーラム」は市民の啓発を目的にテーマ“地域で「孤立化」しないまちづくりを目指して”の講演とパネルディスカッションを中央公民館ホールで実施しました。

講師は「孤立死」ゼロを実現した立川市大山団地自治会長佐藤良子さん、ディスカッション・パネラーに、白梅学園大学教授・森山千賀子先生、地域包括支援センター・中央センター長・藤原淳さん、大沼町北自治会長・田中幸也さんに市民98名が参加して実施、好評裏に終了することが出来ました。

(3) ネットワーク活動の継続を目指して

今回の協働事業が一過性事業で終わることなく、26年度は前年度の課題を引き継ぎ、“地域を安心・元気にするネットワークづくり”をテーマに、講師に白梅学園大学学長汐見稔幸先生をお迎えして「市民フォーラム」を企画しています。西地区地域ネットワークの皆さんのご協力をお願いします。



みんなが住み慣れた地域で暮らすことを地域包括ケアシステムは支援します

「地域包括支援センターけやきの郷」の支援

小平市地域包括支援センターけやきの郷 所長 小泉浩一

わが国は諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しています。65歳以上の人口は、現在3,000万人を超えており（国民の約4人に1人）、2042年の約3,900万人でピークを迎え、その後も、75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されています。

このような状況の中、団塊の世代（約800万人）が75歳以上となる2025年（平成37年）以降は、国民の医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれています。

このため国は、2025年（平成37年）を目前に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。

地域包括支援センターはこうした「地域包括ケアシステム」を構築するための最前線の機関として、今後より重要な役割を担うことになると予想されます。来年度の介護保険法の改正において、地域包括支援センターの役割強化は明確です。特に強化が必要な「認知症高齢者への支援」におい

て、地域で支えるシステム作りの一環として、「認知症初期対応チーム」への参加が見込まれるなど、地域包括支援センターが「医療と介護等の連携」の橋渡しをすることなどが期待されています。

地域包括支援センターけやきの郷は高齢化に伴う地域の実情に即し、医療・介護等の専門機関や地域の民生委員・自治会の方々との連携を模索してきました。今日の高齢社会において、「住み慣れた地域での生活」を支援することが重視されてきていますが、専門機関や地域の住民の方々の方だけで「住み慣れた地域での生活」を維持していただくことは困難を伴います。特に認知症に関わる問題では、認知症のある独居高齢者・高齢者のみ世帯が増加している状況もあって、医療と介護（生活支援含む）の「連携」なくして「住み慣れた地域での生活」を志向していくことは困難です。

地域包括支援センターけやきの郷では、良質な連携体制を根幹にした地域包括ケア実現に向けて、地域に根差した実践を重ねていきたいと考えています。「毎日が敬老の日」であることを意識してほしいと切に願います。



こだいらNPOボランティアセミナーが終了

福井 正徳

6月22日（日）、こだいらNPOボランティアセミナー2014「大学生と市民活動出会いの場」が武蔵野美術大学で開催されました。このセミナーは、市内4大学（白梅、嘉悦、文化学園、武蔵野美術）とNPO法人小平市民活動ネットワーク、こだいらボランティアセンターとが共催で行っているもので、今年で11回目となります。今年は、学生37名、団体から30名、その他スタッフなど11名、計81名が参加、活気のあるものとなり、成功裏に終わりました。

当日は、開会の後、「ボランティア活動に関わって～被災地支援から地域コミュニティのサポーターへ」と題して、東日本大震災の被災地支援活動のためチーム小平を立ち上げて現地での支援活動に熱心に取り組んできたその後いろいろな地域活動に参加されてきた細江卓朗さん（白梅西地区・地域ネットワーク第4ブロック・世話人）による基調講演が行なわれました。



「現地での支援活動を通じていろいろな人との出会いがありつながりができたが、特に2012年5月に福島の子どもを小平に招待した、福島の子ども保養プロジェクトに白梅学園大学の学生が参加していることを郡山市の高校生が知り、それが契機となって今年白梅学園大学を志望し入学された。被災地支援活動をしていてほんとによかったと感じた」と。

午後は小平市にある大学の学生さんに向けて、いろいろな市民活動をしている14の団体が、夏休みを利用して体験参加できるそれぞれが用意した受け入れプログラムを発表、その後各団体の説明ブースにて熱心にプログラムへの参加を呼びかけました。その結果、12団体のプログラムに34名の学生が、ほっとスペースさつきには、3名の学生（文化学園大学2名、白梅学園1名）が参加することになりました。

なお、プログラムに参加した学生による成果発表会が、



—大学生と市民活動の出会いの場に参加して—

ほっとスペースさつき代表 渡辺 穂積

2014年6月22日（日）に武蔵野美術大学で開催された「小平NPO ボランティアセミナー2014」に、「ほっとスペースさつき」は、初めての参加でした。午後の出会いの場では、文化学園大学から2名（有海勤さん、佐々木清佳さん）、白梅学園大学から1名（沖本晃嗣さん）計3名の学生さんがエントリーしてくれました。活動の行程は、暑い最中の7月22日～8月5日（3日間）でしたが、三人とも元気な姿で出向き、早速スタッフから渡されたエプロンをしてお茶やコーヒーのいれ方、来訪者へのお茶出し、さらに食器

洗い等積極的に動き回り、スタッフの人たちを驚かせるほどでした。

そして更に、本人たちが掲げた「来訪者の人たちとの会話」、「世代間交流」にも意欲的に取り組み、高齢者（最高齢95歳）や先輩大学生等と戦争体験から小平の昔、結婚談義等幅広い話で盛り上がり、オセロゲームで一喜一憂するなど、これぞコミュニティサロンと来訪者を楽しませてくれました。もともと「ほっとスペースさつき」は、白梅学園大学との協働で運営しており白梅の学生さんもよく来てくれることから来

コミュニティ・サロン『ほっとスペースきよか』の発展へ

みなさん！お気軽に参加してください！楽しいですよ！

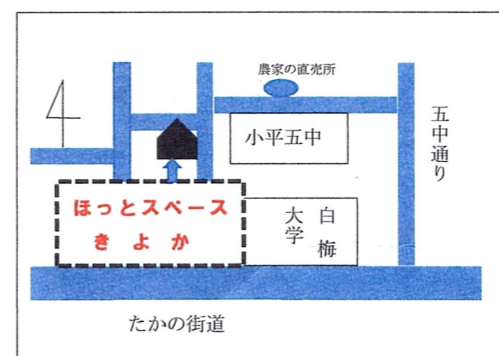
西方規恵（白梅学園大学 第3ブロック担当）

『ほっとスペースきよか』は地域の皆様のいこいと交流の場をめざして2014年2月に仮オープンしました。

1か月に一度のペースで現在までに7回開催してきました。ささやかにしかし着実に当初5-6人だった参加者の方も徐々に増え8月25日には13人の方にご参加頂きました。

『ほっとスペースきよか』ではご近所の方が多いことから共通の話題や、以前からの地域の様子、それぞれの方の生活スタイル、趣味、楽しみ、悩み・・・と話に花が咲きます。日頃挨拶を交わされるだけだった方ともお話をすることで、共感したり、意外な面を発見したりと、楽しい時間があつという間に過ぎていきます。

集まった方にお話をさせていただくと、地域の情報



住所：小平市小川町1-791
お問い合わせ
●地域：石川貞子（携帯）
090-7732-2089
●白梅学園大学企画調整室（FAX：西方規恵）
042-346-5652

訪者の方々も違和感なく受け入れてくれたようです。

そして最後の日です。ハプニングが起きました。それは学生さんが帰ろうとした時、来訪者の方（2名）がハーモニカを持っており、時々には唱歌・童謡等をお願いするのですが、「今日は学生さん最後の日なので『蛍の光』で送ろう」と皆んな（十数人）で『蛍の光』の大合唱となりました。たった3日間だったのですが、皆さん名残惜しかったのではないかと思います。ほんの短い体験学習だったと思いますが、これから社会に出ていく上で少しでもお役に立てれば幸いです。



福島の子ども保養プロジェクト「みんなであそぼう」反省会

大熊町の方の日本舞踊と、自閉症親の会の被災後の生活を紙芝居に

細江 卓朗

「ふくしまキッズプロジェクトinこだいら」が主催し、5月3日～5日に福島の子ども26名を小平市に招待した、福島の子ども保養プロジェクト「みんなであそぼう」の反省会を8月11日18時30分から行いました。

今回は福島第一原発事故により帰郷の目途がまるで立たない福島県双葉郡大熊町の自閉症児親の会スマイルが立ち上げた「おおくま紙芝居一座」の上演会も合わせて実施。本紙芝居は、ふるさとの昔ばなしや被災後の避難生活など被災された方のお話を、広島在住のいくまさ鉄平氏（まち物語製作委員会 事務局長）が紙芝居にされたものです。

1時間の紙芝居の最初は、「凧として 壽欄会物語」。大熊町で日本舞踊を広める活動をされていましたが、被災先の会津若松にて壽欄会

の活動を再開される物語りで、小学生、高校生も踊り篠笛も加わった紙芝居でした。最後は「大熊避難物語 悠稀くんの手紙」。自閉症の翔太さんと家族たちを含めた住民が、原発事故直後に混乱した様子や、目に見えない放射能への不安、避難所での大変な生活などを語られました。

おおくま紙芝居一座の方が18名、小平の参加者は61名。上演の後、夕食をとりながら一座の皆様から被災された当時の様子や現在の状況など貴重なお話を聞く事が出来ました。今後の活動の糧にしたいと思います。福島のことを風化させないように、様々な方が活動しておられることに共感し、持続的な支援が必要との思いを強くしました。



人も草も木も虫もみんな生きている・共存しあう自然環境の大切さ

夏休みに入った8月の土曜日の朝、中央体育館の前には元気な子どもたちがたくさん集まっています。どんぐりの会恒例の《セミの抜け殻調査》の始まりです。コーディネートしてくれる写真家でナチュラリストの高野丈さんが、観察の注意点をレクチャーしてくれました。高野さんは井の頭公園をホームグラウンドに野鳥の観察を続けておられます。



玉川上水と中央公園隣の雑木林には多様な生物が生息しています。木も草も、鳥も虫も共存し合って生きています。そうした環境の大切さを子どもたちに伝えたいと、毎年小平に来て、子どもたちに観察の仕方を教えてくださいます。

いよいよ雑木林に入って抜け殻を探します。アブラゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシ、ニイニイゼミ、ツクツクボウシ、最近は気温の上昇から小平でもクマゼミの声を聴くこともあります。4つのエリアを決めて地面から2M位のところまでにどんな抜け殻がいくつ見つかるか、ローラー作戦でくまなく採集します。そしてエリアごとに持ち寄って、個体数を数えます。

子どもたちにとって身近な環境が、小さな生物が生きる大切な場所であることを、体験を通して学んでいくことはとても大切です。

どんぐりの会がスタートしたのは2008年、この林が都道338号線の計画予定地であることは知っていたが、50年もそのままになっていたのに環境問題が深刻化している今、道路を作ることに疑問を感じました。反対運動も始まり、住民投票も行わ



れてきましたが、肯定的にこの林の素晴らしさを具体的に市民に伝えていくことの必要性を感じたからです。

2009年春の林のコンサートを皮切りに、林の中でたくさんのイベントを開催してきました。中でも小平出身でどんぐりの会のメンバーでもある、鍵本景子さんが朗読する幻燈会は、初演の「オッベルと象」から既に10回を数えています。毎回絵本作家の小林敏也さんによる素敵な絵で、宮澤賢治の物語の世界が林に設えた大画面に映し出されます。暗くなった林に竹の楽器による生演奏が響くと、幻想的な世界に引き込まれ自然と一体感を味わうことができます。この不思議な世界を味わいたいリピーターがたくさんいて、毎回400人位の参加者がいます。幻燈会に使う電力は自転車発電によるもの。遊び感覚でたくさんの人が労働力を提供してくれます。

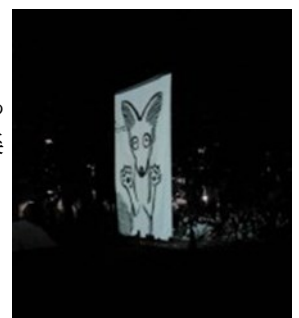
未来に残したいもの、子どもたちに伝えたいことを真剣に考えて、身体を張って頑張っているどんぐりの会です。10月にはまた幻燈会がありますのでぜひ足を運んでください。

10月11日(土) 日没後・・・雨天の時は13日(月)「雪わたり」を取り上げます。お楽しみにしてください。

どんぐりの会HPで会の動画も見られます。

<http://dongurinokai.net/>

林のいきものを描いた「いきものバッジ」を買って支援してください。(足立)



ブロック・団体のイベント予定

第1ブロック

①小平十三小地区防災ネットワーク

10月4日11:30-14:00 場所：小平特別支援学校
 内容：避難訓練、炊き出し体験、健康体操、防災講話
 持ち物：上履き試食用スプーン

②小川西公民館祭への参加

10月11日-12日 10am-16pm

③小平市十三小 青少対祭への参加

11月8日(土) 10am-

第2ブロック

防災キャンプ 10月4日(土) 10am-15pm小雨決行

場所：きつねっぱら公園こども広場

内容：初期消火、煙ハウス体験、すいとん炊き出し、自由遊び 持ち物：お米1カップ+野菜1品+100円、お椀、箸

第3ブロック

第8回ほっとスペースきよか

9月17日(水) 13:30-15:30 お茶代100円

高校生までは無料、小学生以下は保護者の送迎要

第4ブロック

◇コミュニティサロンホットスペースさつき学習会

①9月28日(日)13:30-16pm(開場13pm)

場所：小川公民館2階ホール(13:30-14:30)

テーマ「食物アレルギーのお子さんに対する必要な気配り」

講師：小林美由紀(白梅学園大学教授・小児科医)

テーマ『救急処置の基本とAEDの使い方』

講師：小平消防署 職員

資料代：150円(飲み物付)

② 11月8日(土) 13:30-15:00

場所：白梅学園大学

テーマ：「認知症の理解」

講師：大橋千枝氏(白梅学園非常勤講師)

資料代：150円(飲み物付)

◇白梅祭の計画

10月18(土)・19日(日) 白梅学園大学内

今年も西地区地域ネットワークのブースをF棟1階に開きます。各ブロックで展示したいものなどを提供してください。

足浴や介護体験など計画中

連絡先：森山千賀子・井原哲人042-346-5619

西ネットの担当者一覧

ブロッ	世話人	教職員
1	西 克彦	井上恵子・山路憲夫・ 瀧口 優・福丸由佳
2	芳井正彦・足立隆子 早田 満	関谷栄子・土川洋子 成田弘子・吉村季織
3	石川貞子・久保田進 穂積健児・大内智恵	草野篤子・瀧口真央・ 西方規恵・牧野晶哲
4	渡辺穂積・萩谷洋子 福井正徳・桜田 誠 細江卓朗	杉本豊和・森山千賀子 井原哲人
全体的		奈良勝行・長谷川俊雄

編集担当より

お願い：この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当(奈良まで)お申し出下さい。

投稿募集：このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください。

奈良：メールアドレス

ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp

編集後記 ようやく猛暑を乗り越え涼しさを感じさせる時節となりました。

「小平西のきずな」の今号は第2ブロックの担当者に編集していただきました。今後も皆様のご協力をお願いします(N)